

駿河湾産ソコボウズ類の形態および遺伝的多様性に関する研究

○三田昂平・土田真二・河戸勝・藤原義弘（海洋研究開発機構）

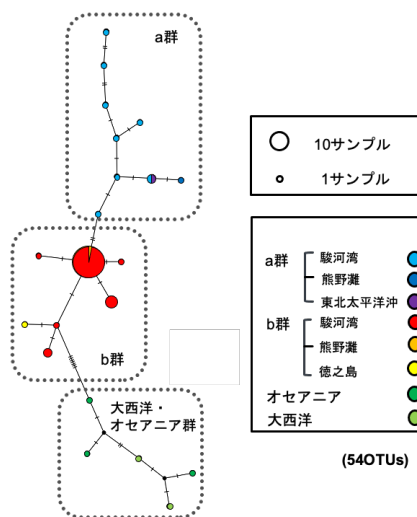
アシロ科シオイタチウオ亜科ハダカイトチウオ属 *Spectrunculus* はソコボウズ *Spectrunculus grandis* および *Spectrunculus crassus* の2有効種で構成されている。このうち *S. crassus* は太平洋東部および大西洋に分布し、日本近海にはソコボウズ1種のみが生息することが知られている。

しかし、2016年に行われた駿河湾深部における生物サンプリング調査において、明瞭に形態の異なる2タイプのソコボウズ類が採集された。一方は大型（1035 mm SL ~ 1295 mm SL, $n=8$ ）で全身が白色、頭頂部から吻端にかけて骨格が隆起し、頭部が先細りするといった標徴を示し（以下a群）、他方はやや小柄（705 mm SL ~ 1135 mm SL, $n=38$ ）で全身が褐色、前頭骨近辺が張り出し、頭部が丸みを帯びるといった標徴を示した（以下b群）。

両群はいずれも標準体長が600 mmより大きい（*S. crassus*: <600 mm SL; ソコボウズ: <1300 mm SL）、脊椎骨数がそれぞれ79-81, 76-80（*S. crassus*: 71-78; ソコボウズ: 77-81）といった特徴からソコボウズに類似するが、背鰭鰭条数（138-144 vs. 130-139）、臀鰭鰭条数（105-110 vs. 97-106）等の形質から明瞭に二分された。また、標準体長に対する肛門全長の割合、標準体長に対する頭長の割合、頭長に対する臀鰭起部における体高の割合といった測定項目においても傾向の違いが見られた。さらに、分光測色計を用いて色彩を数値化し、両群を比較したところ、明瞭に区別されることが判明した。

これらに加え、ミトコンドリアDNA *COI* 領域の塩基配列を比較したところ、両群はハプロタイプを共有せず、ML系統樹では高い統計的確率で異なるクレードを形成した。

ソコボウズのタイプ標本は日本近海（鴨川沖）から採集されており、原記載には褐色を呈するとの記述があったこと、形態的特徴が一致する名義種が未だ存在しないことから、a群は未記載種である可能性が示唆される。タイプ標本との照合、他海域から採集された標本の観察を踏まえた上、さらなる比較検討を行うことが求められる。



駿河湾から採集されたソコボウズ（上：a群，下：b群）

ハプロタイプネットワーク（mtDNA, *COI* 領域, 652bp）